

三重県志摩市における郷土教育教材の開発

教育学部・教育学研究科 | 荻原 彰(教授)

今、日本の抱えているもっとも大きな問題の一つが人口減少です。総務省が発表した2017年の調査によると、日本の人口は前年より約31万人減り、8年連続で減り続けています。今後もこのような人口減少は続き、2050年までに1億人を割ると言われています。

人口減少の影響が大きいのは都市よりも地方です。三重県でいえば南部地域で急激な人口減少が起これ、たとえば志摩市では現在の傾向が続けば、約5万人の人口が2050年には約2万人になり、人口は4割に激減すると予想されています(志摩市人口ビジョン)。

ある程度の人口減少はやむを得ないのですが、問題は地域をこれから支える若者が高校を卒業するとその多くが地域外に流出してしまい、あまり帰ってこないことです。若者が帰ってこなければ地域を支える担い手がなくなり、地域に元気がなくなっていくます。

産業、文化、医療などいろいろな方面からこの問題について考えることが必要ですが、教育という切り口で考えた場合、「郷土教育」の充実が一つのアプローチになると私は考えます。生まれそだった地域の自然や文化の素晴らしさを知り、地域の人々の温かさや知恵に触れることで「この地域で暮らしていきたい」、「この地域に帰ってきたい」という思いを培うことが若者の地域定着につながると思うのです。そんな観点から私の研究室では志

摩市をフィールドにして郷土教育教材の開発を行い、本年は志島小学校に協力頂いて、開発した教材を使った教育実践を行っています。(9月末現在)

1. 磯に出かけて磯にはさまざまな生き物がくらしていることを知る志島の磯体験
2. 海女さんに説明してもらった磯の地形とそこで暮らしているアワビやイセエビの話
3. 子ども達1人1人による、志島の沖合に広がる海底の立体地形図の作成とそれによる複雑な海底地形の理解
4. 演示用の海底地形図を使った、最終氷期以降の海面上昇によるかつての陸上地形の海面下への埋没とそれが複雑な海底地形の起源となったことの説明及び水系図を使った伊勢平野との比較により、大きな河川のなかったことと磯の海の関連性の説明

今後は志島の海が栄養豊かで魚が豊富な海であることを漁師さんのお話により紹介する予定です。

将来的にはこのような教育実践を小学校から高等学校まで、それぞれの校種に合った教材を使って展開していきたいと考えています。



海女さんが海底地形の模型を使って海底の様子や、どのようにしてアワビを採取するのか実演を行っている場面



筆者が、実際の海女漁の写真を使って持続的な漁の工夫について話している場面